

OBON SOCIETY



ソ サ エ ティ OBON SOCIETY 活動概要資料

令和7年 2025年 皇紀2685年



大阪護国神社で開催された岡部辰美命「寄せ書き日の丸」返還式でお父様の帰郷を歓迎された
岡部英佐子さん（ご息女）とご遺族、関係者一同での記念撮影（令和6年7月14日）

OBONソサエティ は 和解を深め、友好を育み、平和な世界を導くことを目指します。

はじめに

戦没された日本兵の一人一人にも、家族がいました

何十年という月日が過ぎた今も、失った大切な人を思う家族がいます。遺骨も、遺霊品も、戻らなかった多くの家族にとって「寄せ書き日の丸」の返還は戦没兵の魂が、家族へ会いに帰ってきたことを意味するのです。

活動のきっかけは、個人的なある「経験」が発端でした。

ビルマ（現ミャンマー）で戦没し、未帰還兵であった敬子の祖父の「寄せ書き日の丸」が、2007年に家族の元へ遠くカナダから返還されたのです。その奇跡の体験から、他にも多くの日の丸が世界のどこかに保管されているのではないかと考えた私たちは、以後念入りな調査を続けました。

そして現在でも、先の大戦で戦利品として持ち去られた「寄せ書き日の丸」が無数に現存している事実を知るに至ったのです。

戦争で失われた尊い命。そして多くの場合、海外で戦没した兵士たちの遺骨や持ち物は、家族に届くことはありませんでした。そんな中、旗は戦争で亡くなった兵士たちと家族をつなぐ、唯一の魂の証でもあるのです。

「少しでも現存している多くの日章旗を返還しよう」という思いをもとに、私たちは米国・オレゴンを拠点に活動を続けています。かつて敵国同士だった日本とアメリカ。戦後80年という時が流れ、両国の関係は素晴らしいものになりました。国際結婚をした私たちにとっては、日本もアメリカも大切な「祖国」です。

アメリカには亡くなった日本兵の事を心から想い、日章旗を返還することによって、過去の歴史と心のわだかまりに終止符をうち、これから先の未来を平和に、そして友好を築いていこうと願われている人々がたくさんいます。

現場で周知している私達が、そのような全米からの多くの温かな声を、日本へお届けする橋渡し役が、OBONソサエティの使命であると思っています。

人の心に「国境」はありません。家族を思う気持ち、誰かの愛する人に敬意を捧げる思いは、国が違ってても共有できるものと思います。旗を返還するという目に見える行為の裏側にあるもの、それは目には見えない「平和」「友好」「和解」の真摯で温かな思いなのです。

全米を含め、世界中には、まだまだ還れないでいる日章旗が無数にあります。一枚一枚の日章旗返還を通して、「平和」と「友好」の輪が世界へ広がって欲しいと願っています。

心を込めて

OBONソサエティ 代表
レックス&敬子 ジーク



動画「平和を我らに」（3分半）
スマートフォンのカメラをかざして
ご視聴頂けます。

組織概要

活動団体名：OBON SOCIETY / OBONソサエティ（非営利団体／オレゴン州公認非営利組織）

活動の目的：

非営利、非政治、非宗教の立場のもと、国家間の絆を繋ぎ、両国民が平和と友好を共に分かち合える未来を作る人道的活動を目的とする。先の大戦時に、連合軍兵士たちが持ち帰った「寄せ書き日の丸」などの遺霊品を、日本のご遺族の元へ返還するという活動を基軸とし、両国のさらなる友好関係を、民間レベルで構築することをミッションとする。

OBONソサエティの活動概要：

日章旗を返還したいと願われている人と、受け取られるご遺族の、橋渡し業務を活動とする。日章旗返還を希望される所有者から旗を受け取り、敬意をもって大切に保管・管理・搜索をし無償で日本のご遺族へ返還している。当団体は日章旗は購入いたしません。調査開始は2009年5月。様々な研究、検証等を行いながら活動のネットワークを徐々に広げ、厚生労働省や日本遺族会他、多くの方々の協力を得て現在に至る。退役軍人とその家族を含め遺霊品所有者から返還依頼を受けた総数は約3000件以上。ご遺族や地元コミュニティー等へ760件以上の返還を行った。加えて、啓発活動として、オレゴン州、アストリアでのOBONソサエティの展覧や各地での講演会、YouTube「秘話」動画シリーズ、SNS等、平和や友好、和解のメッセージ発信を展開している。

組織所在地：米国オレゴン州、アストリア（P.O. Box 282 Astoria, Oregon 97103 U.S.A.）

組織の沿革

- 2009年 5月：OBON 2015 と命名し活動を開始
- 2015年 8月：首相官邸において 安倍総理表敬訪問
- 2015年 12月：外務大臣表彰 受賞
- 2016年 1月：OBONソサエティ に活動名を変更
- 2016年 12月：「旧日本兵の遺霊品取引禁止」をeBayに要望し、自主規制という形で達成
- 2017年 8月：OBONソサエティ の活動が国内外メディアで報道
- 2019年 8月：日本遺族会 と遺霊品返還に伴う再委託契約を締結
- 2020年 7月：YouTube「秘話」動画シリーズ開始
- 2023年 11月：令和5年秋の叙勲「旭日双光章」を受章

お問合せ

Eメールアドレス： contact@obonsociety.org

ウェブサイト： <http://obonsociety.org>

Facebook (フェイスブック)： <https://www.facebook.com/OBONSOCIETY/>

YouTube (ユーチューブ)： <https://www.youtube.com/user/OBON2015/videos>

Twitter (ツイッター)： <https://twitter.com/obonsociety>

活動支援に関するページ： <https://obonsociety.org/jpn/page/donate>

代表者プロフィール

レックス・ジーク

米国オレゴン州で生まれ育った木こりの息子で、高校卒業後は中南米で先住民の生活記録を学び記録する。その後、写真家（1992年5月Life紙掲載）、記録映画カメラマン（1993年エミー賞受賞）となる。ワシントン州の森で樹齢900年の森林が大企業によって伐採される寸前に、レックスが工夫して考慮した熱意の訴えにより、伐採から免れ森が保護地区となり現在も無事に生息している。

レックスの独自研究により、ルイス&クラーク探検隊の歴史記録の矛盾を発見、ワシントン州ゲリー・ロック知事指名によって、知事の諮問委員会となる。レックスの新たな発見がキッカケとなり米国内務省が記念して、新たな国立公園を制定する。

2009年より、レックスと敬子でOBONソサエティの活動を開始する。

敬子・ジーク

京都で生まれ育つ。小学5年生から剣道を始め8年間修業（剣道二段）。高校卒業後は日本と英国で美容師免許取得。豪華客船で勤務後、持ち前の社交的な性格から、豪華客船で士官に就任、世界各国をクルーズする日本人や世界中からのお客様の接待を務める。

2007年に祖父の「寄せ書き日の丸」が返還され

2009年に結婚したレックスと共に、OBONソサエティの活動に取り組み現在まで至る。



オレゴン州アストリア日章旗返還式典より

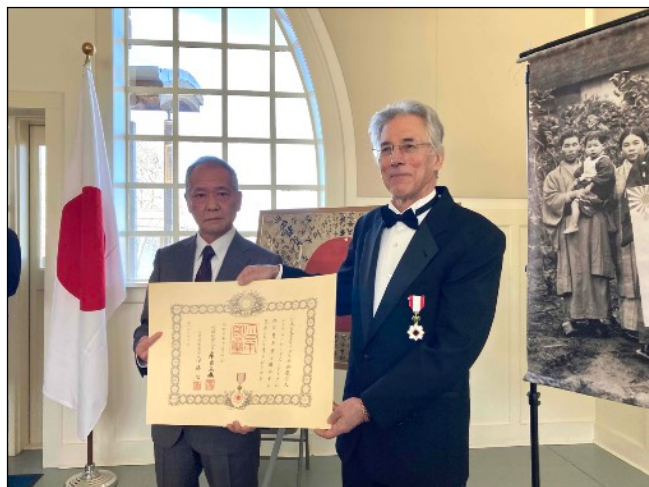


首相官邸において安倍総理表敬訪問



返還依頼を受けた「寄せ書き日の丸」とレックス&敬子 ジーク

レックス・ジークは、米国における対日理解の促進及び日米間の友好親善に寄与したOBONソサエティの功績が認められ旭日双光章を受章



欧米と日本における「旗」の概念の違い

日本人にとって「寄せ書き日の丸」とは、先の大戦で出征する兵士へ武運長久を祈り、愛する一人一人が心を込めて直筆で署名やメッセージを日章旗に寄せ書きしたもの。それを受け取った日本兵達は、丁寧に折りたたんで肌身につけ戦地へと赴いた。当時、殆ど全員の日本兵が1～3枚の「寄せ書き日の丸」を身に付けていたとされている。つまり、日本人にとっての「寄せ書き日の丸」は、日本人の精神性を象徴するものであった。

一方において、欧米諸国においての「旗」は、全く違った意味をもつ。西洋の歴史において、戦地における「旗」は、敵味方の軍を識別するための重要なツールであり、交戦を先導するための役割をもっていた。そのため、敵軍の「旗」を戦利品として納めることは、大変名誉な事とされ、実際に敵軍の旗を持ち帰った兵士は大きな手柄をたてたと賞賛され、名誉勲章が手渡されることも多かった。

そのような旗に対する文化認識の違いから、欧米兵にとって「寄せ書き日の丸」は、戦利品の中では、一番人気があった。日本兵の全員が身に付けていたので、多くの連合軍兵士達が入手できたことも、多くの旗が今も現存している理由の一つだ。日本語が読めない連合軍兵士たちにとっては、そこに何が書かれているのか理解する術は、なかったのだ。

OBONソサエティ はアメリカを中心として欧米諸国に、寄せ書き日の丸の意味を正しく伝えることで、旗返還を通じた平和啓発を続けている。



出征する日本兵（OBON SOCIETY 所蔵資料）

遺霊品の所有者は何故、ご遺族へ返還を希望されるのでしょうか？

OBONソサエティは、遺霊品所有者に返還依頼をする理由を尋ねました。

今まで誰にも語る機会がなかった彼らは、秘めた気持ちを私たちに打ち明けてくれました。

QRコードをスマートフォンのカメラにかざすと日本語字幕付きで動画をご覧いただけます。



「秘話」エピソード 23

祖父の寄せ書き日の丸を
譲り受けた孫が、来日して
返還式でご遺族へ手渡すまで
のエピソードを語ります。



「秘話」エピソード 24

叔父の寄せ書き日の丸を
譲り受けた甥が、長年に渡る
返還までの気持ちを語ります。



「秘話」バドおじさん

(パート1) 前編

叔父の寄せ書き日の丸を
譲り受けた姪が、返還までの
経緯と不安を打ち明けます。



「秘話」バドおじさん

(パート2) 後編

寄せ書き日の丸が返還終了後に
ご遺族から届いた手紙を読んだ
姪の反応はいかに？



「秘話」エピソード 19

戦利品として米国軍事博物館で
展示していた寄せ書き日の丸が
全米で初めて返還できることにな
った秘話。



「秘話」エピソード全集

秘話 全集を視聴できます。
一枚の旗を通じての「想い」
をお届けします。



OBONソサエティは、遺霊品返還を通じて過去から学び、次世代へ継承していきたいメッセージを発信して参ります。

ホームページ： <https://obonsociety.org>